公益財団法人　上廣倫理財団

公益財団法人　角川文化振興財団　助成事業

第28回

俳句甲子園

（全国高等学校俳句選手権大会）

実施報告書

主催：NPO法人俳句甲子園実行委員会　　共催：松山市、愛媛県

後援：文部科学省、（公社）全国高等学校文化連盟　ほか

【大会最優秀句・文部科学大臣賞】

天に地に鶺鴒の尾の触れずあり



高校生にしか語れない俳句がある





＜俳句甲子園の目的＞

全国各地から俳句という文学を介して高校生たちが松山に集い、日本語を操る能力の向上、将来的な日本俳句文学の興隆のみならず、高校生相互の文化的交流、更には大会に関わる異世代との社会的交流を深め、豊かな人間性を育むことを目的としています。

＜開催趣旨＞

誰でもふと口ずさむことができ、フランス人に「生きる芸術」と呼ばれた俳句。Ｐ．ピカソが「広々とした自由」と呼んだ俳句。現在全国の俳句愛好者は５００万人を超え、いまや「俳句の時代」といわれるほど、この小さな詩形は、日本人の日々の暮らしに溶け込んでいます。とりわけ愛媛県では、近世から階層を問わずあらゆる分野の人々が俳諧に親しんできました。中世には神仏に捧げる法楽連歌が多く残されており、明治以降には俳句を近代の詩として再生させた正岡子規をはじめとして、高浜虚子、河東碧梧桐、中村草田男、石田波郷、芝不器男、富沢赤黄男など、さまざまな個性に彩られた俳人を輩出した伝統的風土があります。

俳句は、現代を生きる人々の心を＜五・七・五＞という十七音に凝縮されたわずかな言葉の空間に解き放ち、またひとつの作品が読者との間にさまざまな読み方の回路を開き、いろいろに読むことができるという自在な活力にも満ちています。各地から俳句に親しむ高校生が一堂に参集し、俳句を楽しみ、交流することは、本来「座」に集う人々の共同の文芸であった俳句に相応しく、そこから生まれる人間的な交流は、高校生にとって国語教育の一環としてのみならず、新鮮で貴重な社会的経験となり、豊かな人間性を育むであろうと考えます。

また、次代を担う若者たちの新鮮な発想と創造性、しなやかで軽やかな感受性は、この小さな詩の未知の魅力を我々の前に開いてくれることでしょう。

以上のように＜俳句甲子園＞は俳句を通じ地域間・世代間の交流と若者の文化活動の活性化に必ず寄与するものと考えます。

（1997年当時作成）

＜大会運営＞

大会の運営はＮＰＯ法人を中心としながら、大会を卒業したＯＢＯＧや市民で構成される１００名以上のボランティア、地元松山市の職員が連携しながら実施します。また文部科学省や、全国高等学校文化連盟などの後援もいただき、高校生の良き学びの場、新たな交流や成長の場となるよう配慮した運営をしています。

＜大会スケジュール＞

６月に地方大会、８月に全国大会を行います。参加可能な地方大会会場が近くに無い場合等は投句審査（句のみの書類選考）にてエントリーする事も可能です。

＜28回大会日程＞

２月４日…「大会募集要項」「開催要綱」発表
４月１日…地方大会兼題　発表
５月８日…エントリー締め切り
６月１４～１５日、２１～２２日…地方大会
（全国１２都市１８会場）
６月２６日…全国大会出場チーム　発表
８月２２～２４日…全国大会

◆大会１日目
ウェルカムパーティー、組合せ抽選会、敗者復活戦席題発表・提出

◆大会２日目
開会式、予選リーグ、予選トーナメント

◆大会３日目
敗者復活戦、決勝リーグ、決勝、表彰式、フェアウェル交流会

＜兼題＞

◆地方大会
「春の星」「遠足」「躑躅」「寄居虫」

◆全国大会
予選リーグ第１・２試合「青田」
予選リーグ第３・４試合「心太」
予選リーグ第５・６試合「天牛」
予選トーナメント「葉桜」
敗者復活戦「枝豆」
決勝リーグ第１試合「新涼」
決勝リーグ第２試合「鶺鴒」
決勝リーグ第３試合「蔦」
決勝戦「百」

＜審査員長＞

高野　ムツオ（小熊座主宰）／中原　道夫（銀化主宰）／星野　高士（玉藻主宰）／小澤實（澤主宰）／夏井　いつき（いつき組組長）／髙田　正子（青麗主宰）／森賀　まり（百鳥、静かな場所）／岸本　尚毅（天為、秀）／堀田季何（楽園主宰）／阪西　敦子（ホトトギス、円虹）／村上　鞆彦（南風主宰）／西村　麒麟（麒麟主宰、古志）／神野　紗希（現代俳句協会常務理事）

＜ウェルカムパーティー・組合せ抽選会＞

今年度もウェルカムパーティーを開催し、選手たちは親交を深めました。また、パーティーの中で組合せ抽選会を実施しました。抽選会後は敗者復活戦の席題「枝豆」が発表され、選手たちはチームで協力し句を作成しました。戦いはもう始まっています。





＜エントリーチーム＞

３０都道府県９４チームからのエントリーがあり、１７都道府県３２チームが全国大会へ出場しました(うち３チームが全国大会初出場)。(※は合同チーム、★は地方大会優勝による全国大会出場チーム、◎は投句審査による全国大会出場チーム)

都道府県名	チーム名	エントリー回数	参加区分・会場
北海道	北海道旭川東高等学校A	23	地方大会・札幌会場
	北海道旭川東高等学校B	23	地方大会・札幌会場
	北海道旭川西高等学校 ★	2	地方大会・札幌会場
	旭川実業高等学校	4	地方大会・札幌会場
	北海道札幌西高等学校	6	地方大会・札幌会場
青森県	青森県立弘前高等学校	11	地方大会・北上会場
	青森明の星高等学校	初	投句
岩手県	岩手県立水沢高等学校A ★	21	地方大会・北上会場
	岩手県立水沢高等学校B	21	地方大会・北上会場
	岩手県立花巻北高等学校	5	地方大会・北上会場
宮城県	宮城県小牛田農林高等学校	16	地方大会・北上会場
	仙台市立仙台高等学校	4	地方大会・多賀城会場
秋田県	秋田県立秋田北高等学校	7	地方大会・多賀城会場
山形県	山形県立山形東高等学校 ★	4	地方大会・多賀城会場
	山形県立山形南高等学校	9	地方大会・多賀城会場
福島県	福島県立磐城高等学校 ◎	12	地方大会・多賀城会場
	福島県立福島高等学校	初	投句
茨城県	茨城県立結城第二高等学校	14	地方大会・高崎会場
	茨城県立下館第一高等学校	16	地方大会・多賀城会場
群馬県	群馬県立高崎高等学校 ◎	8	地方大会・高崎会場
	群馬県立高崎女子高等学校 ◎	3	地方大会・高崎会場
	群馬県立伊勢崎高等学校A	初	地方大会・高崎会場
	群馬県立伊勢崎高等学校B	初	地方大会・高崎会場
埼玉県	星野高等学校A ★	9	地方大会・高崎会場
	星野高等学校B ★	9	地方大会・高崎会場
千葉県	渋谷教育学園幕張・東葛飾高等学校 ※	初 (初・初)	投句
東京都	開成高等学校A ★	25	地方大会・東京会場
	開成高等学校B ◎	25	地方大会・東京会場
	東京家政学院高等学校	7	地方大会・東京会場
	海城高等学校 ★	12	地方大会・東京会場
	学習院女子高等科 ◎	2	地方大会・東京会場
	明治大学付属中野高等学校A	4	地方大会・東京会場
	明治大学付属中野高等学校B	4	投句
	青山学院高等部	初	地方大会・東京会場
	駒場東邦高等学校	初	地方大会・東京会場
神奈川県	慶應義塾湘南藤沢高等部A	13	地方大会・横浜会場
	慶應義塾湘南藤沢高等部B	13	地方大会・横浜会場
	神奈川県立横浜翠嵐高等学校 ★	9	地方大会・横浜会場
	横浜市立桜丘高等学校	初	地方大会・横浜会場
	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校	12	地方大会・横浜会場
	洗足学園中学高等学校A ★	3	地方大会・横浜会場
	洗足学園中学高等学校B ◎	3	地方大会・横浜会場
	神奈川県立橋本高等学校	初	投句
	神奈川県立多摩高等学校	2	投句
石川県	石川県立金沢錦丘高等学校	11	投句
長野県	長野県屋代高等学校	12	地方大会・高崎会場

岐阜県	大垣日本大学高等学校A	6	地方大会・大垣会場
	大垣日本大学高等学校B	6	地方大会・大垣会場
	聖マリア女学院高等学校A	8	地方大会・大垣会場
	聖マリア女学院高等学校B ★	8	地方大会・大垣会場
	岐阜県立飛騨神岡高等学校	20	地方大会・大垣会場
	鶯谷高等学校 ◎	6	地方大会・大垣会場
愛知県	※ 岡崎東・時習館高等学校	初 （9・2）	地方大会・安城会場
	名古屋高等学校A ◎	14	地方大会・安城会場
	名古屋高等学校B ★	14	地方大会・安城会場
	名古屋高等学校C ◎	14	投句
	愛知県立豊橋西高等学校	9	地方大会・安城会場
三重県	上野・高田・津高等学校 ※	初 （初・23・初）	投句
京都府	洛南高等学校A ◎	23	地方大会・大阪会場
	洛南高等学校B	23	地方大会・大阪会場
	京都共栄学園高等学校 ◎	2	地方大会・和歌山会場
大阪府	大阪桐蔭高等学校	10	地方大会・和歌山会場
兵庫県	灘高等学校 ★	11	地方大会・大阪会場
	兵庫県立長田高等学校	初	投句
和歌山県	桐蔭・和歌山信愛高等学校 ※★	初 （10・初）	地方大会・和歌山会場
	智辯学園和歌山高等学校A	7	地方大会・和歌山会場
	智辯学園和歌山高等学校B	7	地方大会・和歌山会場
	和歌山県立海南高等学校	7	地方大会・和歌山会場
岡山県	岡山県立岡山朝日高等学校A	15	地方大会・大阪会場
	岡山県立岡山朝日高等学校B	15	地方大会・大阪会場
山口県	山口県立徳山高等学校A ★	12	地方大会・福岡会場
	山口県立徳山高等学校B	12	地方大会・福岡会場
	山口県立下松工業高等学校	3	投句
	山口県立防府高等学校	3	投句
愛媛県	愛媛県立松山中央高等学校	17	地方大会・松山会場
	愛媛県立新居浜西高等学校	14	地方大会・松山会場
	松山学院高等学校	2	地方大会・松山会場
	愛媛県立今治西高等学校 伯方分校A	26	地方大会・松山会場
	愛媛県立今治西高等学校 伯方分校B	26	地方大会・松山会場
	愛媛県立松山東高等学校A ★	27	地方大会・松山会場
	愛媛県立松山東高等学校B	27	地方大会・松山会場
	済美平成中等教育学校 ◎	21	地方大会・松山会場
	新田青雲中等教育学校	11	地方大会・松山会場
	愛媛県立今治西高等学校	20	地方大会・松山会場
	愛光高等学校 ★	20	地方大会・松山会場
	愛媛大学附属高等学校A ★	6	地方大会・松山会場
	愛媛大学附属高等学校B	6	地方大会・松山会場
	愛媛県立松山西中等教育学校	17	地方大会・松山会場
高知県	土佐高等学校	6	地方大会・松山会場
福岡県	福岡県立八女高等学校	6	地方大会・福岡会場
熊本県	熊本信愛女学院高等学校	25	地方大会・福岡会場
宮崎県	延岡学園尚学館高等部 ★	2	地方大会・福岡会場
沖縄県	興南高等学校A ◎	10	地方大会・福岡会場
	興南高等学校B ◎	10	地方大会・福岡会場

全国大会



北海道旭川西高等学校
（北海道）



岩手県立水沢高等学校
（岩手県）



山形県立山形東高等学校
（山形県）



福島県立磐城高等学校
（福島県）



開成高等学校A
（東京都）



開成高等学校B
（東京都）



海城高等学校
（東京都）



学習院女子高等科
（東京都）



鷺谷高等学校
（岐阜県）



名古屋高等学校A
（愛知県）



名古屋高等学校B
（愛知県）



名古屋高等学校C
（愛知県）



山口県立徳山高等学校
（山口県）



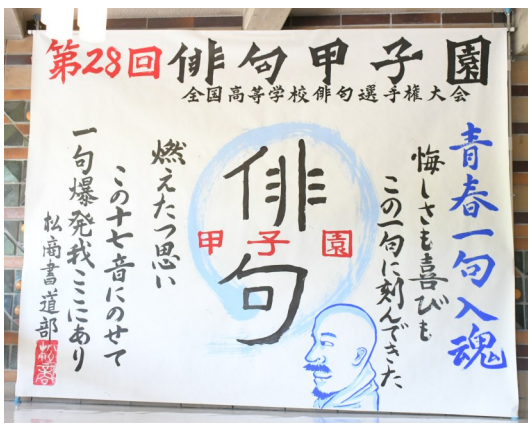
愛媛県立松山東高等学校
（愛媛県）



済美平成中等教育学校
（愛媛県）



愛光高等学校
（愛媛県）







出場チーム一覧



群馬県立高崎高等学校
（群馬県）



群馬県立高崎女子高等学校
（群馬県）



星野高等学校A
（埼玉県）



星野高等学校B
（埼玉県）



神奈川県立横浜翠嵐高等学校
（神奈川県）



洗足学園中学高等学校A
（神奈川県）



洗足学園中学高等学校B
（神奈川県）



聖マリア女学院高等学校
（岐阜県）



洛南高等学校
（京都府）



京都共栄学園高等学校
（京都府）



灘高等学校
（兵庫県）



桐蔭・和歌山信愛高等学校
（和歌山県）



愛媛大学附属高等学校
（愛媛県）



延岡学園尚学館高等部
（宮崎県）



興南高等学校A
（沖縄県）



興南高等学校B
（沖縄県）

OBOG会

俳句甲子園経験者の有志によりＯＢＯＧ会が結成され、俳句甲子園を支えてくれています。地方大会や全国大会は、大勢のＯＢＯＧのボランティアスタッフが運営に携わり、この報告書にも彼らが撮影した写真が多く使われています。

毎年多くのＯＢＯＧが「俳句甲子園をもっと盛り上げていこう」、「俳句甲子園に恩返しを」など、様々な想いで応援してくれています。













予選トーナメント



＜予選リーグ、予選トーナメント＞

約４８０ｍの大街道商店街アーケードに８つの特設ブロック会場が設けられます。参加３２チームが１ブロック４チームに分かれ、決勝リーグ進出をかけ火花を散らせます。

相手の俳句のポイントを的確に見抜き、鑑賞し、質問する言葉の応酬。言葉と言葉の真剣勝負に道行く人は思わず魅了され、立ち止まります。審査員の旗が上がり勝敗が決まるたびに、会場では拍手や歓声があがります。

＜評価の基準＞

◆作品点（１０点満点）

各審査員が、提出句ごとに１０点満点で俳句の創作力を総合的に評価します。











◆鑑賞点（１点）

　各審査員が、対戦ごとに質疑応答を審査して、各チームの総合鑑賞力を評価し、鑑賞力の上まわるチームにのみ１点を付与します。

◆合計ポイントが同じ場合

　原則として、作品点の高いチームの勝利となります。但し、同点でかつ、減点がある場合は、減点のない又は減点数の少ないチームの勝利となります。

＜競技の際の注意点＞

◆相互の鑑賞力を促進する為、対象句側のチームによる句の自発的な解説は認めません。

◆お互いに俳句という文学的フィールドの中で、協議対象句に対する個々の見識・感受性・創造力を競い合うことを目的とする対戦であり、決して作品・個人に対する誹謗中傷の場ではありません。



敗者復活戦・決勝リーグ













＜敗者復活戦＞

組合せ抽選会終了後に発表された席題で、定められた時間内に、チームで１句創作し、事前に審査員長１３名が作品点上位５チームを選出します。ここに、１日目の予選トーナメントで敗れた４チームが加わり、計９チームが敗者復活戦に臨みます。敗者復活戦は各チーム代表者２名が登壇、句を披露、審査員長との質疑応答（１分）を行います。作品点と鑑賞点の合計で上位２チームを選出します。

今大会の席題は「枝豆」で、「枝豆や断層揺らぐ音しづか」の山形県立山形東高等学校が１位、「枝豆を押して映画の再放送」の群馬県立高崎高等学校が２位となり、決勝リーグへと駒を進めました。

決勝戦・表彰式







＜決勝リーグ・決勝＞

松山市民会館では、YouTubeのライブ配信が行われ、全国の視聴者が試合の行く末を見守ります。

予選トーナメントを勝ち進んだ、洛南高等学校、星野高等学校A、神奈川県立横浜翠嵐高等学校、名古屋高等学校Bと、敗者復活戦を勝ち抜いた山形県立山形東高等学校と群馬県立高崎高等学校の６チームがぶつかります。決勝リーグは「新涼」「鶺鴒」「蔦」を兼題として、Ａブロック、Ｂブロックに分かれて、３校ずつが熱戦を繰り広げ、それぞれのブロックを勝ち抜いた洛南高等学校と神奈川県立横浜翠嵐高等学校が決勝戦に進みました。

「百」を兼題に戦った決勝は、神奈川県立横浜翠嵐高等学校が３－１で洛南高等学校を下し、初優勝を成し遂げました。

＜大会結果＞

優勝：神奈川県立横浜翠嵐高等学校（神奈川県）

準優勝：洛南高等学校（京都府）

3位（決勝リーグ進出チーム）

山形県立山形東高等学校（山形県）

群馬県立高崎高等学校（群馬県）

星野高等学校A（埼玉県）

名古屋高等学校B（愛知県）

＜フェアウェル交流会＞

今年は、決勝リーグの会場でもあった松山市民会館の大ホールで開催されました。激戦を終えた選手たちが一堂に集結し、大会の思い出や、それぞれが作った句に対して、熱く語り合いました。

また、ＯＢＯＧたちとも交流を深め、これからの俳句活動についても考えを深める光景も見られました。

＜審査員長評（抜粋）＞

夏井　いつき　先生

実は私は、この俳句甲子園に第１回の立ち上げの時からずっと関わっております。最初の頃、もう議論にもならないようなところから、俳句甲子園というのは出発したんです。さっきの並んだ審査員賞の作品を見ていただいたらこの２８年の成果というのは、わかっていただけるんじゃないかと思います。

言葉というのは、表現する機能と伝達する機能と二つあります。もちろん俳句は表現する。でも、議論の部分は相手にきちんと伝わらないといけないと思います。ちゃんと相手に伝わる声、トーン、早さをしっかりと考えてください。来年に向けて、そういう言葉の力をつけて、またここに帰ってきていただきたい。

こういう気持ちの良い大会をずっと続けていただくためには、俳句を愛する高校生が続々と続いてきてくれないといけない。それぞれの高校で、新しい人たちにこの俳句の種をしっかりとバトンタッチしていただきたいと思います。

【個人最優秀賞・文部科学大臣賞】



天に地に鶺鴒の尾の触れずあり

学習院女子高等科　本間　まどか

＜審査員長講評（抜粋）＞

高野　ムツオ　先生

今回はここにいる審査委員長が全員納得してこの句にしようと決めたんです。

この句の良いところは、鶺鴒の生き方、とにかく尾を振って、あたりを警戒したり、外敵に襲われないように必死になって生きている姿が、天地というこの空間にいつでも展開されている。それが表現された素晴らしいスケールの大きい俳句だと思います。



＜個人賞＞

最優秀賞（文部科学大臣賞）

天に地に鶺鴒の尾の触れずあり　学習院女子高等科　本間まどか

〈優秀賞〉

水打つて昭和百年目を生きる　神奈川県立横浜翠嵐高等学校　那住悠太

寄せ書きを囲ふあかるい蔦が要る　開成高等学校Ｂ　有澤大輝

家系図に知らぬ百人秋簾　神奈川県立横浜翠嵐高等学校　福村紗矢

ねむる天牛だめなことをだめって言うちから　洗足学園中学高等学校Ａ　林田理世

親の怒号教師の怒号百合ひらく　山形県立山形東高等学校　東海林あや

少年はよき耳を持ち青田風　開成高等学校Ａ　工藤直樹

傍聴にゆく葉桜の並木かな　開成高等学校Ａ　鬼澤優太朗

終点の駅の匂ひや百日紅　延岡学園尚学館高等部　森山文結

阿弖流為に今も愛され石叩　開成高等学校Ｂ　原島奏

かんたんな喉なりけり心太　開成高等学校Ａ　太田惺

天牛の孤独に湖の広がりぬ　岩手県立水沢高等学校　中澤美賀

百歳を迎へし肌や花衣　愛媛県立松山東高等学校　坂上昊翼

元母に会いにゆくバス青田波　福島県立磐城高等学校　吉村優菜

〈入選〉

押し出され無色の僕等ところてん　北海道旭川西高等学校　石井りつか

口笛の今新涼に混じりけり　群馬県立高崎高等学校　木村陽翔

天牛の溺るるごとし掴まれて　星野高等学校Ｂ　鈴木海南

朝市に渡船葉桜へと寄りぬ　海城高等学校　永所勇人

スカートを蹴りつつ走る青田道　神奈川県立横浜翠嵐高等学校　吉岡心晴

祭には行かぬ帰郷や心太　神奈川県立横浜翠嵐高等学校　池田光希

葉桜や彼ら二人にしておかむ　名古屋高等学校Ａ　関谷諒太

新涼や坊主にすればみんな見る　名古屋高等学校Ｃ　細田連太郎

全方位見え全方位青田なる　名古屋高等学校Ｃ　近藤理仁

天牛は夜汽車の粗き灯に浸かる　洛南高等学校　前田佑介

ところてん食べちゃう？今日ラマダンだけど　京都共栄学園高等学校　神田恭志

充電で生きているヒト蔦かづら　桐蔭・和歌山信愛高等学校　荷見友里愛

蔦は今海へ向かっているのだと　山口県立徳山高等学校　温品翔天

心太持ち上げきつて透きとほる　愛媛県立松山東高等学校　中津陽希

世の中が私に合わぬ心太　済美平成中等教育学校　松江祐芽

のど飴に喉冷たしや庭叩　愛光高等学校　井上苺香

冗談ですませてくれよ心太　愛媛大学附属高等学校　土居さと

手の中の天牛嫌と鳴きにけり　延岡学園尚学館高等部　河野麻桜

百足ゆく溶接痕の虹色を　興南高等学校Ｂ　大濱千昊

天牛の眉間の瘤が見えて来ぬ　興南高等学校Ｂ　天久大輔



また来年、「俳都松山」で会いましょう

第29回大会へ・・・

＜お問い合わせ先＞

NPO法人 俳句甲子園実行委員会 事務局
〒790-0014　愛媛県松山市柳井町２丁目２１－３
TEL：089-943-1512（平日13：00～17：00）
E-mail　info@haikukoushien.com

又は　松山市坂の上の雲まちづくり部　文化・ことば課
〒790-8571　愛媛県松山市二番町四丁目７－２
TEL 089-948-6524　FAX 089-934-1913
E-mail bunkakotoba@city.matsuyama.ehime.jp